

□主な内容

【第 12 回 EST 普及推進フォーラムの参加者募集中！】

EST 普及推進委員会では、5 月 13 日(月)に、第 12 回 EST 普及推進フォーラム「パリ協定に向けた持続可能な交通システム(仮)」を開催します。皆様の参加をお待ちしております。

<http://www.estfukyu.jp/forum12.html>

【「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」中間とりまとめを公表】

国土交通省では、平成 31 年 3 月 14 日に第 8 回懇談会を開催し、MaaS を含む新たなモビリティサービスの推進のための取組等について中間とりまとめを公表しました。

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000089.html

目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 152 回)

●「送迎は美談か？」

【大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任教授 土井 勉】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 152 回)

●「BRT(いまざとライナー)の運行による社会実験について」

【大阪市都市交通局 鉄道ネットワーク企画担当 河田 壮司】

3. ニュース／トピック

●「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」中間とりまとめを公表【国土交通省】

●スマートシティの実現に 207 団体からの提案を公表 各地域におけるスマートシティの取組に活用 ～今春以降のモデル事業の実施に向け、公募・選定へ～【国土交通省】

●中小トラック・バス事業者に対し燃費性能の高いハイブリッド自動車の導入補助を実施します！【国土交通省】

●独占禁止法等の競争規制の地域交通への適用に関する相談窓口のご案内【国土交通省】

●平成 31 年度 地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む活動団体の公募【環境省】

●平成 31 年度低炭素社会実現のための都市間連携事業委託業務の公募【環境省】

●水素・燃料電池戦略ロードマップを策定しました【経済産業省】

●平成 30 年度「エコモビ実践キャンペーン」の実施結果を掲載しています【愛知県】

●WEB サイト「Linimo × YouTuber in Aichi」を開設しました【愛知県】

- 大阪城公園における実証事業支援～次世代型低速自動走行モビリティサービ「iino」の実証の実施について～【大阪市】
- 地域活性化に関する包括連携協定を締結【岐阜市、ソフトバンク】
- 「MaaS を日本に実装するための研究会」を発足【ブロードバンド推進協議会】
- STI for SDGs アワード シンポジウム～科学技術イノベーションによる課題解決、そして地方創生へ【JST】
- 過疎地域の次世代交通・エネルギー問題の 課題解決に向けた新たな取組み『ISOU PROJECT』を開始 ～夏に北海道厚沢部町で実証実験を実施～【INDETAIL、TIS 株式会社】
- 『自転車 NAVITIME』日本初、国や地方公共団体が整備を進める「自転車通行空間」に対応【ナビタイムジャパン】
- 2025 年までに欧州で発売するすべての四輪商品を電動車両へ【本田技研工業】
- バス停で東急線運行情報のご案内を開始～鉄道・バスをシームレスに利用できる環境づくりをすすめます～【東急バス】
- 持続可能なモビリティ、食糧、エネルギーを紹介する写真コンテストの出場を募集【欧州環境庁】

4. イベント情報

- 第 12 回 EST 普及推進フォーラム【2019/5/13】
- アースデイ東京 2019【2019/4/20-21】
- 都市計画法 50 年・100 年記念シンポジウム(第 2 弾) 都市計画の領域と新展開 ―新たなフレームワークの構築に向けて―【2019/5/31】
- エコライフ・フェア 2019【2019/6/1-2】
- 第 14 回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)【2019/7/19-20】
- 第 26 回 ITS 世界会議シンガポール 2019【2019/10/21-25】
- 第 17 回 ITS シンポジウム 2019【2019/12/12-13】
- 第 17 回アジア太平洋地域 ITS フォーラムブリスベン 2020【2020/5/25-28】

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 152 回)

●「送迎は美談か？」

【大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任教授 土井 勉】

各地の地域公共交通の会議に参加させていただくことが多い。そこでは地域の皆さんの熱意溢れる意見を聴くことが多い。その一方で「本音」を聴くことができる貴重な場でもある。

そこでは送迎についても語られることが多い。「朝の駅までの送迎時間が高校生の娘と会話ができる唯一で貴重な時間」「近所のお祖母ちゃんを病院へ送迎をすると感謝される」…など。家族との会話の時間、困った人たちを支えるなど送迎は美談の様に語られることが多い。送迎に良い面があることを否定はしないが、本当に美談なのだろうか？

送迎される人から考えると、確かに移動のサポートは有り難いことだ。しかし、何度も送迎をしてもらうことになると、外出を控えることにもなりかねない。特に、通院などと異なり、友人との交流や趣味の活動を行う場合には送迎を遠慮することが多くなる傾向がある。実際にこうした愉しみの活動は送迎を受ける立場の人たちの場合、潜在化することが多くなる。ここに移動支援の手段として公共交通が導入されると、送迎されていた人たちが自分の力で外出することが可能となり、活動が顕在化することになる。公共交通は人々の活動を活発にする装置である。

さらに、ここで強調したいのは送迎を行う人たちも大変だということである。送迎をする人たちは、朝は子供や夫を駅まで送り、午前中に親を病院に送迎し、午後になると子供を迎えに行き、塾に送り、夜は夫を駅に迎えに行くことになる。一日の多くの時間が送迎に費やされる。これでは正規雇用どころか、パートの職につくことも容易ではない。こうした送迎を分析すると 30～40 歳代の女性によって担われていることが多い。送迎の負担は彼女たちの活躍の時間を狭くしている可能性がある。

ここで公共交通の交通手段分担率(交通を行う際に利用する交通手段の割合)が高い都市圏では送迎が少なくなることが我々の研究で明らかになっている。公共交通の充実を図ることは環境的に望ましいだけでなく、送迎の負担を軽減することで、多くの人たちが活躍できる社会を構築することにもつながっている。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 152 回)

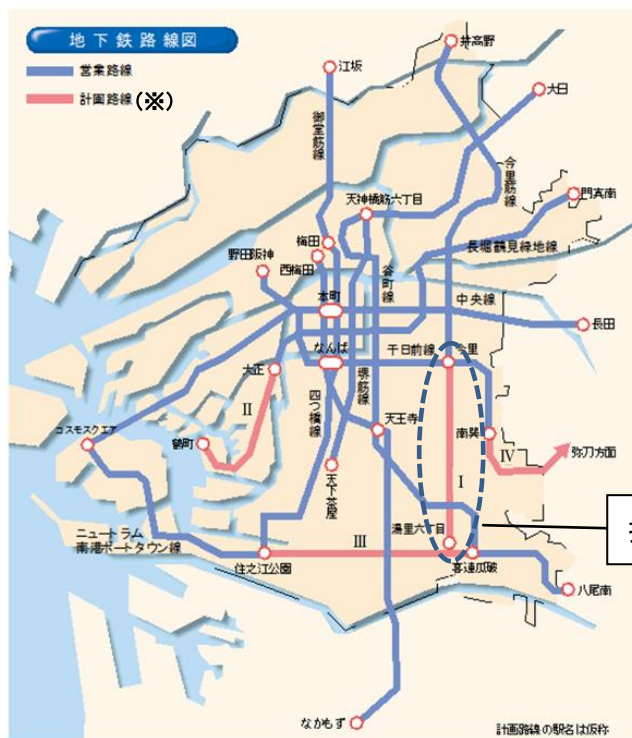
●「BRT(いまざとライナー)の運行による社会実験について」

【大阪市都市交通局 鉄道ネットワーク企画担当 河田 壮司】

○ 社会実験に至る経緯と目的

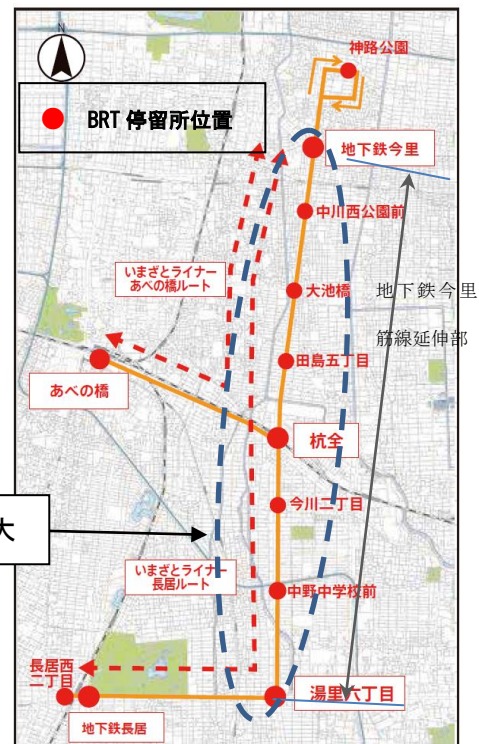
本市の条例に位置付けられていた未着手の地下鉄計画路線の事業化については、鉄道ネットワーク審議会において、収支採算性の面などで、極めて厳しい試算結果が示されました。また、審議会において、まずは、地下鉄今里筋線延伸部で『BRT による需要の喚起・創出及び鉄道代替の可能性を検証するための社会実験』の実施に向けた検討を行うよう提言を受けました。

これらの経緯から、本市では、地下鉄今里筋線延伸部における需要の喚起・創出及び鉄道代替の可能性の検証のため、平成 31 年 4 月 1 日から、BRT(いまざとライナー)の運行による社会実験を行います。(下図参照)



大阪市の地下鉄路線図

(※) 図中の計画路線は、大阪市の条例に位置付けられていた未着手の地下鉄計画路線で、現在条例は廃止している。



いまざとライナー運行ルート図

○ いまざとライナーの運行ルート

いまざとライナーの運行ルートは、地下鉄今里筋線延伸区間(地下鉄今里～湯里六丁目)を基本に、沿線地区の利用者の利便性向上と需要の喚起・創出につなげるため、地下鉄今里停留所から地下鉄長居停留所(地下鉄やJRに接続し、長居公園にも近接)までの長居ルートと、地下鉄今里停留所からあべの橋停留所(地下鉄やJRに接続し、大規模商業施設や天王寺動物園などの集客施設に近接)までのあべの橋ルートの2ルートとしました。

○ いまざとライナーの車両

いまざとライナーの車両の外観は、本年6月に4つのデザインのなかから選択式のweb投票を実施し、地下鉄今里筋線のラインカラーを表す橙色を基調とするデザインに決定しました。走行中においても、利用者が一目でいまざとライナーと認識いただけるデザインとなっています。また、多くの方々にワクワク感を持ってご利用いただけるように、車両ごとにテーマを設定し、1台1台異なる車内デザインを採用しています。(写真参照)。



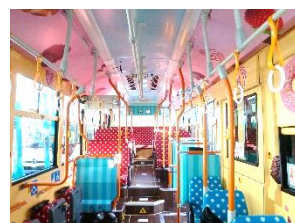
いまざとライナー車両



テーマ：アフリカン



テーマ：和



テーマ：ポップ



テーマ：アメリカン

車内デザインの一例

○ 社会実験の実施期間

社会実験の目的である需要の喚起・創出の効果を検証するために、毎年度利用状況を確認しつつ、需要の定着等を考慮した3年程度経過時に効果検証を行い、必要な需要の喚起・創出策を講じることとし、さらに2年程度経過後、再度効果検証を行った上で、その後の対応方針を決定していくこととしています。

3. ニュース／トピック

●「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」中間とりまとめを公表【国土交通省】

国土交通省では、MaaS(※)などの新たなモビリティサービスの活用により、都市・地方が抱える交通サービスの諸課題を解決することを目指し、日本版 MaaS の将来像や、今後の取組の方向性などを検討するため、標記懇談会を開催しています。

平成 31 年 3 月 14 日に第 8 回懇談会を開催し、MaaS を含む新たなモビリティサービスの推進のための取組等について中間とりまとめを行いました。

※MaaS(マース)・・・“Mobility as a Service”の略。出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段をシームレスに一つのアプリで提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000089.html

●スマートシティの実現に 207 団体からの提案を公表 各地域におけるスマートシティの取組に活用 ～今春以降のモデル事業の実施に向け、公募・選定へ～【国土交通省】

国土交通省では、昨年 12 月 14 日から本年 1 月 25 日まで、企業、地方公共団体等を対象にスマートシティのシーズ・ニーズに関する提案募集を実施してきました。

提案募集の結果、146 団体から 398 件の技術提案、61 の地方公共団体から 271 件のニーズ提案があり、本日、その内容を国土交通省ホームページに公表しました。企業や地方公共団体等が、今回公表する提案内容を参照することにより、構想を具体化させるなど、各地域における取組みへの活用が期待されます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi07_hh_000131.html

●中小トラック・バス事業者に対し燃費性能の高いハイブリッド自動車の導入補助を実施します！【国土交通省】

国土交通省では、平成 30 年度第 2 次補正予算に係る「中小企業向けハイブリッドトラック等導入支援事業」の公募を実施しています。

補助対象は、ハイブリッドバス・ハイブリッドトラックで、通常車両価格との差額の 1/3 が補助されます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000207.html

●独占禁止法等の競争規制の地域交通への適用に関する相談窓口のご案内【国土交通省】

国土交通省では、地域交通分野の独占禁止法の適用等について専用の窓口を設置します。乗合バス等の利便性向上や活性化の取組を進める上で独占禁止法上の懸念があれば、お気軽にご相談ください。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000136.html

●平成 31 年度 地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む活動団体の公募【環境省】

環境省は、地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む活動団体を公募しています。本事業は、地域循環共生圏づくりプラットフォームを構築し、地域循環共生圏創造を強力に推進するため、「地域の総合的な取組となる経済合理性と持続可能性を有する構想策定及びその構想を踏まえた事業計画の策定」、「地域の核となるステークホルダーの組織化」等の環境整備と一緒に取り組んでいただける団体を 20 団体程度選定することを目的としています。

<https://www.env.go.jp/press/106493.html>

●平成 31 年度低炭素社会実現のための都市間連携事業委託業務の公募【環境省】

環境省では、低炭素社会形成に関する経験やノウハウ等を有する本邦自治体と海外都市による、低炭素社会形成への取組を効果的・効率的に支援するための事業を行います。日本の研究機関、民間企業、大学と連携し、日本の自治体が、海外都市に適した低炭素技術やサービスの活用、その他低炭素化に向けた取組をより効率的に推進します。また、海外都市でのマスタープランの策定支援や技術の評価・選定プロセスの共有等、日本の自治体による低炭素化に向けた能力開発についても推進します。

2013 年度に開始以降、アジアを中心に 10 カ国 27 都市と、日本 12 都市が参画しており、本事業から二国間クレジット制度(JCM)設備補助事業につながった案件は 15 件に上ります。来年度に向けても、4 月 4 日まで、海外都市におけるさらなる低炭素社会形成取組支援のため、事業を公募します。

<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/kobo/h31/kyoryoku-infra/31.html>

●水素・燃料電池戦略ロードマップを策定しました【経済産業省】

水素社会の実現に向けて、水素基本戦略及び第 5 次エネルギー基本計画で掲げた目標を確実にするため、水素・燃料電池戦略協議会において、新たな「水素・燃料電池戦略ロードマップ」が策定されました。ロードマップでは、目指すべきターゲットを新たに設定し、目標達成に向けて必要な取組を規定するとともに、有識者による評価 WG を設置し、分野ごとのフォローアップを実施することとしています。

<http://www.meti.go.jp/press/2018/03/20190312001/20190312001.html>

●平成 30 年度「エコモビ実践キャンペーン」の実施結果を掲載しています【愛知県】

愛知県では、クルマ(自家用車)と公共交通、自転車、徒歩などをかきこく使い分ける「エコモビリティ ライフ」(エコモビ)の推進のため、様々な取組を行っています。その一環として、県内の事業所が期間中、エコ通勤を中心とした「エコモビ」に積極的に取り組む「エコモビ実践キャンペーン」を平成 30 年 11 月 15 日(木)から 12 月 14 日(金)までの間、実施しました。

このキャンペーンは、平成26年度から実施しており、今年度は、民間企業、大学等の教育関係機関、経済団体、NPO 法人等の各種団体、市町村など、3,400 を超える多様な事業所に参加していただきました。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kotsu/310221ecomobi.html>

●WEB サイト「Linimo × YouTuber in Aichi」を開設しました【愛知県】

愛知県では、国内のみならず、国外からも多くの方々にリコモにご乗車いただき、沿線に足を運んでいただくため、リコモと沿線地域の魅力を詰め込んだ WEB サイト「Linimo × YouTuber in Aichi」を開設しました。YouTuber の方のレビュー動画や、動画に登場した沿線施設に関する情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

<https://www.pref.aichi.jp/kotsu/linimo-pr/>

●大阪城公園における実証事業支援～次世代型低速自動走行モビリティサービス「iino」の実証の実施について～【大阪市】

大阪市、大阪府及び大阪商工会議所により構成する「実証事業検討チーム」は、関西電力株式会社が大阪城公園で実施する次世代型低速自動走行モビリティサービス「iino」を活用した移動空間サービス及び技術実証を支援します。「iino」は、関西電力株式会社が開発した時速 1～5km の低速で自動走行するモビリティサービスです。

<http://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryō/keizaisenryaku/0000464657.html>

●地域活性化に関する包括連携協定を締結【岐阜市、ソフトバンク】

岐阜市とソフトバンク株式会社は、未来に向けて持続可能で成長する都市づくりを目指し、地域活性化と市民サービスの向上に寄与することを目的とした包括連携協定を、2019 年 2 月 1 日に締結しました。本協定は、未来に向け持続可能で成長する都市づくりを目指し、地域活性化と市民サービスの向上に寄与することを目的とします。

https://www.softbank.jp/corp/group/sbm/news/press/2019/20190201_02/

●「MaaS を日本に実装するための研究会」を発足【ブロードバンド推進協議会】

一般社団法人ブロードバンド推進協議会は、わが国における MaaS(Mobility as a Service)の実装を推進するため、民間事業者や有識者、自治体などによる「MaaS を日本に実装するための研究会」をイノベーション部会の配下に発足させ、2019 年 5 月 14 日に第 1 回研究会を開催します。

今回発足する研究会は、交通関係やアプリ・システム開発関係の事業者、有識者、自治体などが一堂に集って MaaS を取り巻くさまざまな課題について意見交換を行い、報告書として取りまとめて関係省庁へ提出したり、実装に向けて事業者間の連携を実現したりすることで、わが国における MaaS の実装を推進することを目的としています。

<http://bba.or.jp/ja/?p=3084>

●STI for SDGs アワード シンポジウム～科学技術イノベーションによる課題解決、そして地方創生へ【JST】

科学技術振興機構では、科学技術を用いて社会課題の解決や SDGs の実現に向けた取り組みを実施している団体等を表彰する「STI for SDGs アワード」を創設いたします。

このたびアワードの創設を記念し、科学技術を用いた社会課題解決事例の紹介や、地方創生の在り方を提起するシンポジウムを開催いたします。

<https://www.jst.go.jp/sdgs/>

●過疎地域の次世代交通・エネルギー問題の 課題解決に向けた新たな取り組み『ISOU PROJECT』を開始 ～夏に北海道厚沢部町で実証実験を実施～【INDETAIL、TIS】

株式会社 INDETAIL と、TIS インテックグループの TIS 株式会社は、過疎地域などにおける次世代交通・エネルギー問題の解決に向けた手段を提供する『ISOU PROJECT(イソウ・プロジェクト)』を開始することを発表しました。

『ISOU PROJECT』は、日本国内の地方での少子高齢化・過疎化による交通インフラの衰退と、エネルギーコスト増加による地域経済の衰退という課題に対し、電気自動車(EV)・再生エネルギー・ブロックチェーン技術を用いた、次世代交通およびエネルギープラットフォームを構築することで、新たな移送手段・地域活性化・エコ社会の実現を目指すプロジェクトです。2019 年夏に北海道檜山郡厚沢部町での実証実験を予定しており、それに続く事業展開を推進していきます。

<https://www.indetail.co.jp/news/19668/>

●『自転車 NAVITIME』日本初、国や地方公共団体が整備を進める「自転車通行空間」に対応【ナビタイムジャパン】

株式会社ナビタイムジャパンは、2019 年 2 月 19 日より、自転車専用ナビゲーションアプリ『自転車 NAVITIME』にて、国や地方公共団体が整備を進める「自転車通行空間」の対応を開始します。「自転車通行空間」とは、自転車の安全な走行のため車道の一部を活用した自転車ナビマークの設置や、構造的に分離された自転車専用の通行部分です。

この度の対応で『自転車 NAVITIME』においてルートを検索すると、「自転車通行空間」を優先したルートが「推奨ルート」として表示されるようになり、ユーザーは自転車向けに整備された安全なルートを通ることができます。第一弾として、京都市の「自転車通行空間」に対応します。京都市内における自転車ナビマーク(矢羽根)等を優先的にナビゲーションします。

http://corporate.navitime.co.jp/topics/pr/201902/19_4702.html

●2025 年までに欧州で発売するすべての四輪商品を電動車両へ【本田技研工業】

本田技研工業株式会社は、スイス ジュネーブで開催されている 2019 年ジュネーブモーターショーにおいて、欧州における電動化の方向性について発表しました。

欧州における電動化をさらに加速させるため、2025年までに欧州で販売する四輪商品のすべてをハイブリッド、バッテリーEVなどの電動車両に置き換えるという目標を発表しました。

<https://www.honda.co.jp/news/2019/4190305.html>

●バス停で東急線運行情報のご案内を開始～鉄道・バスをシームレスに利用できる環境づくりをすすめます～【東急バス】

東急バス株式会社は、バス停留所に設置したバス接近表示器で、バス接近情報のほか、東急電鉄の鉄道運行情報の提供も開始しました。

利用客はバス停にしながら東急線の遅延や運休などの情報をリアルタイムに確認可能となります。

<https://www.tokyubus.co.jp/news/001923.html>

●持続可能なモビリティ、食糧、エネルギーを紹介する写真コンテストの出場を募集【欧州環境庁】

欧州環境庁(EEA)は、「モビリティ(移動手段)」「食糧」「エネルギー」の3つを切り口に、人々が持続可能な暮らしを考える契機として、2019年フォトコンテストを開催します。例えば「移動手段」部門では、コンパクトシティやクリーン燃料など持続可能なモビリティの課題と可能性について、「食糧」部門では、どのような食品が持続可能か、それはどのように生産され食卓に届けられるかについて、「エネルギー」部門ではエネルギー依存の姿や、環境や気候に悪影響を及ぼさないエネルギー生産方法について、をそれぞれとらえた作品を募集しています。結果は2019年6月に発表される予定で、3つの部門それぞれに1000ユーロの賞金が贈られるほか、若者を対象にした特別賞、最終選考作品からオンライン投票によって決める一般投票賞も設けられています。

<https://www.eea.europa.eu/highlights/photo-competition-to-profile-sustainable>

4. イベント情報

●第12回 EST 普及推進フォーラム

日時:2019年5月13日(月)13:30~17:00

場所:ルポール麹町 2階「ロイヤルクリスタル」

主催:EST 普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/forum12.html>

●アースデイ東京 2019

日時:(1日目)2019年4月20日(土)10:00~19:00

(2日目)2019年4月21日(日)10:00~18:30

場所:代々木公園(イベント広場・ケヤキ並木)

主催:アースデイ東京 2019 実行委員会

<http://www.earthday-tokyo.org/2019/01/17/6881>

●都市計画法50年・100年記念シンポジウム(第2弾) 都市計画の領域と新展開 ―新たなフレームワークの構築に向けて―

日時:2019年5月31日(金)12:30~15:10

場所:東京大学(弥生講堂)

主催:(公社)日本都市計画学会

<http://www.cpij.or.jp/com/50+100/1st20181117.html>

●エコライフ・フェア 2019

日時:2019年6月1日(土)~2日(日)

場所:都立代々木公園

主催:環境省

<http://ecolifefair.env.go.jp/>

●第14回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)

日時:2019年7月19日(金)~20日(土)

場所:石川県金沢市 石川県立音楽堂

主催:(一社)日本モビリティ・マネジメント会議

<https://www.jcomm.or.jp/convention/>

●第26回 ITS 世界会議シンガポール 2019

日時:2019年10月21日(月)~25日(金)

場所: Suntec Singapore Convention and Exhibition Centre

主催: Land Transport Authority, ITS Singapore

http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_100/singapore_2019/

●第 17 回 ITS シンポジウム 2019

日時: 2019 年 12 月 12 日(木)~13 日(金)

場所: 石川県地場産業振興センター

主催: 金沢大学、(特非)ITS Japan

http://www.its-jp.org/event/its_symposium/17th2019/

●第 17 回アジア太平洋地域 ITS フォーラムブリスベン 2020

日時: 2020 年 5 月 25 日(月)~28 日(木)

場所: Brisbane Convention & Exhibition Centre QUEENSLAND

主催: ITS Australia

http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_110/katsudou2014tabid_110katsudou2014tabid_110ap_forum17/

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/nev_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<http://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<http://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecommo.or.jp (担当: 熊井、中道)

発行: 環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>